

「今後の県立高校に関する意見交換会（第2回）」記録要旨【宮古ブロック】

平成 27 年 11 月 18 日（水）

宮古商業高校 大講義室

【山田町 参加者】

- ・ 少子化が進む中、現在の 1 学級 40 人定員を見直し 35 人学級等とする考えはないのか。
- ・ 地域の活性化のためにも山田高校の存続をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 現在県内の多くの小規模校では、少人数指導を行っている。1 学級の定員を少なくすると国からの財源が減額され教員の配置が減少するという課題がある。復興加配がいつまで続くのかという不確定な要因もあることから、40 人定員を維持し、国からの財政措置を同程度受けながら、生徒の学習状況に応じた習熟度別学習等、きめ細やかな指導を継続することが現状においては望ましいと考えている。
- ・ 沿岸部の高校については、復興の途上であるということを考慮し再編計画の策定を進めて参りたい。

【宮古市 参加者】

- ・ 宮古地域から盛岡地域の高校に多くの中学生が流出していることを県はどのように考えているか。
- ・ 宮古地域の中で、大学進学にも就職にも対応できる高校の配置を考えていただけるのか。

【県教委】

- ・ 震災後 3 年間の平均のブロック間交流をみると、宮古ブロックにおいては転出と転入の差異は 108 人であり、流出が多くなっている。盛岡ブロックの他、私立高校への進学が多い。
- ・ 各ブロックにおいて進学にも就職にも対応できるよう普通科、専門学科をバランス良く配置することを基本に検討をしている。

【宮古市 参加者】

- ・ 今後 5 年で、中学校卒業予定者は大きく減る。この数字を見ると宮古地区の高校のあり方をどうするかということではないか。
- ・ 中学生のアンケートでは、宮古ブロックは全県に比べて商業科を希望する中学生が多くなっている。こういったことも考慮し再編を進めていただきたい。

【県教委】

- ・ 前回の中学生のアンケートでも宮古ブロックは商業科の希望が多かったところ。中学生の進路希望や平成 32 年度までの生徒減少、震災からの復興といった状況を十分見据えた上で検討して参りたい。

【宮古市 参加者】

- ・ 校舎制となる場合、部活動はどのようになるのか。

【県教委】

- ・ 例えば、実習は A 校舎で行い B 校舎にバスで移動して普通教科の授業を受け、その後、一緒に部活動を行う形態も考えられるところ。こういったことにより活動する人数が増え、部活動がより活性化することを期待している。

【宮古市 参加者】

- ・ 生徒の希望を優先しブロック（学区）を超えて高校に進学できるようにしてほしい。
- ・ 今後、道路交通網が整備され交通事情がますます良くなることが予想させる。学区の見直しを検討しても良いのではないのか。

（次頁に続く）

- ・ 川井地区は盛岡第二高校が最も近い。将来的に男女共学にしても良いのではないか。

【県教委】

- ・ 現在8つの学区があり普通科に設けているが、10%以内であれば学区外から受け入れているもの。なお、平成27年度入試から定員を満たしていない場合は10%を超えて入学できるものとした。学区については、全県1区にしてほしいとか学区を狭めてほしいといった様々な意見を伺っているところであり、その見直しについては、高校再編計画とは別に検討していきたいと考えている。

【県教委】

- ・ 平成28年度から新たな入試制度となることから、その様子を見つつ高校再編とは別に学区・ブロックの見直しを検討して参りたい。

【山田町 参加者】

- ・ 前回の高校再編では宮古ブロックはそのままであった。釜石地区は釜石高校と釜石商工高校に統合した。統合校のメリット、デメリットについて伺いたい。

【県教委】

- ・ 釜石商工高校について、学習面では他学科の科目を選択することにより、視野を広め幅広い知識を身に付けることができる。生徒指導面では、全体として男女のバランスが良く落ち着いた学校生活を送っている。進路指導面では、商業系、工業系の幅広い進路選択が可能となっている。全体として単独の専門高校に劣らない成果をあげている等のメリットがあるところ。一方、生徒減少が進み、大きく定員を割り込んでいるのが課題である。

【山田町 参加者】

- ・ 今後の生徒減少を考えると宮古ブロックでも統合を進めていかなければならないだろう。校舎制も含めて県としての現段階での再編の考えを伺いたい。

【県教委】

- ・ 沿岸部は復興の途上であること等を踏まえ、今後の生徒減少に対応した再編を考えていかなければならない。宮古ブロックは宮古市内と山田町、岩泉町は分けて考えていく必要がある。宮古市内については、校舎制を視野に検討を進めていく必要がある。小規模校については、公共交通機関や地域の実情を十分考慮していかなければならないと考えている。ただし、1学級定員以上の欠員が生じた場合は学級減を検討しなければならない。定時制昼間部のあり方についても地域のニーズを把握しながら検討して参りたい。

【宮古市 参加者】

- ・ 再編計画に関するスケジュールについて確認したい。

【県教委】

- ・ 12月までに再編計画案を公表し、平成28年1月から2月にかけてパブリックコメント等を行った上で、平成28年3月を目標に再編計画を策定したいと考えている。

【宮古市 参加者】

- ・ 平成28年度から策定した行程表通り進めていくのか。

【県教委】

- ・ 計画期間は平成28年度から平成37年度までの10年間としているが、前期5年間では統合や学級減、学科改編等の具体的な計画を示し、後期の5年間については見通しを示すことになる。計画期間は平

(次頁に続く)

成 28 年度からとしているが、平成 28 年度の募集定員は決まっているので、実際の計画期間は平成 29 年度からとなる。

【宮古市 参加者】

- ・ 平成 27 年度内に再編計画は確定するという理解でいいのか。そうだとすれば、あまり期間がない。もう少し詳しく再編計画について説明していただけないか。

【県教委】

- ・ 目標は平成 27 年度中に策定したいと考えているところであるが、再編計画案公表後の説明も丁寧に行っていきたいと考えている。議論の内容によっては、多少ずれ込むことも想定している。

【県教委】

- ・ 現在、各地域の皆様からいただいた御意見等を踏まえ調整しているところであり、具体的な案をお示しできないことを御理解いただきたい。
- ・ 本日いただいた御意見・御提言についても、本年末を目途としている新たな高等学校再編計画案の参考とさせていただきたい。なお、案公表後は、パブリックコメントを実施し、その一環として説明会を開催し、皆様から御意見等を十分伺ったうえで再編計画を策定して参りたい。